

# 高温に伴う農作物等の管理対策

令和4年6月16日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が6月13日に「高温に関する早期天候情報（北陸地方）」を発表し、19日頃からかなりの高温（5日間平均気温平年差+2.1℃以上）になる可能性があるとして予想しています。

については、下記の管理対策を参考として、高温に伴う農作物等の管理に十分留意してください。

## 1 水稲

- (1) 茎数の急激な増加による籾数過剰や倒伏を防止するため、溝切りの徹底により中干しの効果を高め、過剰な生育を抑える。
- (2) 乾かし過ぎて大きなヒビが入ると根を傷めるので、田面の状態に注意し、大きなヒビにならないよう走り水かん水を行う。
- (3) 5月下旬に田植えをしたほ場でも茎数を確認して、速やかに中干しを開始する。
- (4) フェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝の手直し、タテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつながぎを確認する。

## 2 小麦

高温かつ降雨の条件下では、赤かび病や穂発芽の発生による品質低下が懸念されるため、穀粒水分が35%以下になったら晴れ間を見て、早めに収穫する。

## 3 野菜

- (1) 施設野菜（トマト、きゅうり、いちごなど）

ア 天候に応じて細かな換気等を行い急激な温度変化を避ける。

イ 着果負担が生じているほ場では、ガク枯れや葉先枯れが発生し、その枯れた部分から灰色かび病などの病害が発生しやすくなるため、換気による適切な温度・湿度管理を徹底する。また、必要に応じて内張カーテンによる遮光等を行う。

病害が発生した場合は、葉かきや花びら取り、罹病葉の除去を行い、その後防除する。

ウ 育苗中の苗類は、25℃を目安に換気を行い、育苗ハウス内の温度を下げる。しおれが見られる場合は、天候に応じて寒冷紗等でハウス全体を遮光する。

エ いちごは、ハウス内温度・湿度を下げるため換気を強めるとともに、吸水量も増加するため、葉がしおれないようかん水回数を増やす。

高温下では果実の品質が低下しやすいので、収穫後の取扱いを丁寧に行い、果実のおせ・スレの発生を防止する。

オ ハウスすいかでは、30～35℃をめやすに換気量を調整する。日中に葉のしおれ等

が目立つ場合は、チューブかん水を行う。

## (2) 露地野菜

ア 定植期のほ場では、葉焼けや活着遅れとならないように苗に十分かん水を行ってから作業を行い、乾燥しているほ場では、植穴かん水を行う。

イ 育苗中の苗は温度上昇に注意し換気を行う。ハウスの換気で温度上昇が抑えられない場合は、一時的に遮光を行う。ただし、遮光のしすぎは苗の徒長を助長するため注意する。

ウ トンネルすいかやメロンでは、換気量を多くする。

## 4 果樹

(1) 高温多湿条件下では病害の発生が懸念されるため、病害虫発生予察情報等に留意し、生育ステージに応じた適切な病害虫防除に努める。降雨の合間を縫って散布する場合も考えられるので、事前に準備を整えておく。なお、高温時の薬剤散布は、薬害の恐れがあるので注意する。

(2) 今後の高温により生育が早まる可能性があるため、生育進度を把握しながら、管理作業を進める。袋掛け、仕上げ摘果、新梢管理などの作業は、生育ステージに合わせ適期に行う。

(3) ぶどう、日本なしなどの施設栽培は、ハウス内の高温による生育障害を招きやすいので、換気による適切な温度・湿度管理に努める。

## 5 花き

### (1) 球根類

ア 球根類の掘り取り後の初期乾燥にあたっては、高温多湿による球根腐敗病等の多発を防ぐため、通風等に留意し、乾燥庫内の温湿度をできるだけ下げよう努める。

イ ユリの球根養成ほ場では、晴れ間をみて適切な病害虫防除に努める。

### (2) 露地切り花類

ア 地下部の高温多湿による病・障害の発生を避けるため、ほ場の排水に努める。

イ 降雨の晴れ間の強日射による葉焼け等生理障害の発生に十分留意するとともに、葉枯病や灰色かび病等の防除に努める。

ウ 抑制ユリ切り花栽培では芽伸ばし・順化处理を十分に行うとともに、植え付け後は発根促進を目的に、敷わらや適切な遮光管理を行う。

### (3) 施設切り花・鉢花類

ア 病害虫の発生状況を早期に把握し、迅速に防除する。

イ 高温多湿・日照不足による軟弱徒長を防ぐため、天候に応じた適切な遮光やかん水管理に努める。

ウ オリエンタル系ユリ切り花では、高温期の採花において出荷前の予冷温度が低すぎると花しみ障害が発生しやすいので、予冷温度は10℃程度で行う。

## 6 畜産

- (1) 天気予報に注意し、急な気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策を早めに準備する。  
特に、換気扇、送風機は支障なく稼動するよう、ほこりを落とし、ベルトの張り、注油などの点検、電気系統の具合もチェックする（掃除をすることによって、風量も含めて効率がアップする）。
- (2) 柵やネット等で野生鳥獣の侵入防止を図りつつ、開放畜舎では通風をよくするために開口部はできるだけ開放し、空気の流れを妨げるものを除去する。
- (3) 搾乳牛は畜舎内の温度が 20℃を超えたら暑熱対策を実施し、家畜の体感温度の低下に努める。
- (4) 家畜の観察を励行するとともに、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、新鮮な飼料・飲水が確保されるように努める。
- (5) 良質な飼料給与により食欲低下を防止する。
- (6) 高温時のミネラル、ビタミン及び重曹の給与は効果があるので、家畜への慣らし給与を始める。

## 7 きのこと

- (1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。
- (2) 換気をする場合は、害菌・害虫の進入防止対策に努める。
- (3) 害菌の早期発見に努め、汚染された菌床は速やかに撤去する。
- (4) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。
- (5) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。
- (6) 露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。
- (7) 仮伏せ中のほだ木をシート等で被覆している場合は、通風、日除け、散水などで温度管理に努める。
- (8) その他、極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。